

夙川学院短大家政 ○田村直美

奈良女大家政 登倉尋実

目的 圧迫と身体生理機能の関係は、半側発汗反射の現象を基礎として種々研究されているが、今回は圧迫を衣服圧として取り上げ、ボディースーツを着用することによって身体軀幹部を圧迫した場合に、体温調節反応がどのような影響をうけるかを明らかにするために次の実験を行なった。

方法 ボディースーツはW社製646BR、ミディアムタイプ、セミスタンダードスタイルを使用した。

被験者は健康な成年女子4名で、まずボディースーツ着用による身体寸法の変化と、ボディースーツによる衣服圧の測定を行なった。その後33℃の人工気象室に入室し、Tシャツを着用してベッドバランス上で椅座位安静状態で温熱平衡に達した後の皮膚温、直腸温、体重減少量、酸素消費量、衣服気候の10分間の値をコントロール値として採用した。次にただちにボディースーツを着用して同項目を30分間測定した。

結果 ボディースーツを着用することにより身体寸法は着用前よりも小さくなった。圧力は部位・体位によって差はみられたが、40 g/cm²をこえるものはなかった。

発汗量はボディースーツを着用することによって有意に減少した。酸素消費量も減少の傾向がみられた。皮膚温については大腿において圧迫の効果がみられたが、他の部位においては一定の傾向がみられなかった。直腸温は圧迫を加えてもほとんど変化しなかった。これらの事実について体温調節生理学の立場から考察を加えたい。